

## 【胃がん地域連携パス】

胃がん地域連携パスについて、次のように運用させていただきますので、ご協力よろしくお願いいたします。

### 1. 対象患者

胃がん地域連携パスの対象患者さんは、原則として次の要件を満たした方です。

- ① 県立広島病院で手術を施行（初回）
- ② 進行度Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ期胃がん症例

### 2. パス導入時の連絡

患者さんに地域連携パス導入の同意が得られれば、担当医またはパス担当者より連携医療機関の先生へ電話にて連携の依頼をさせていただきます。

### 3. 県立広島病院への定期受診など

#### ★進行度Ⅰ期の場合★

術後は、基本的に6ヶ月ごとに県立広島病院へ受診していただき、腫瘍マーカー（3年目までは6ヶ月ごと、その後は1年ごと）・CT（1年ごと）・上部消化管内視鏡／胸部 X-p（1年後に1回、その後は2年ごと）の検査を実施し、転移再発の診断を行います。

#### ★進行度Ⅱ・Ⅲ期の場合★

術後は、基本的に3ヶ月ごとに県立広島病院へ受診していただき、腫瘍マーカー（2年目までは3ヶ月ごと、その後は6ヶ月ごと）・CT（1年ごと）上部消化管内視鏡／胸部 X-p（1年後に1回、その後は2年ごと）の検査を実施し、転移再発の診断を行います。

※ただし、進行度や他の疾病などによっては、スケジュールが変わることがあります。また、必要時に残胃造影、注腸、CF、骨シンチ、PETを実施します。

### 4. 連携医療機関の先生にお願いする診療

- ① 診療の間隔や内容については、胃がんの共同診療計画書をご参考にしていただき、適宜、血液検査を見ながら、腹部症状・術後障害などの観察をお願いします。

また、原則的に以下の項目についても連携医療機関の先生をお願いします。

- ② 薬剤の投与・変更・追加（投薬内容の変更をお願いすることがあります。）
- ③ 高血圧症・脂質異常など他の合併症に関する管理

※採血データなど診療情報を当院へ送付いただきますようお願いいたします。その際、貴院においては、月1回を限度として『がん治療連携指導料 300点』を算定することができます。（パス導入時にがん治療連携計画策定料を算定したものに限りです。）

### 5. 術後化学療法

進行度Ⅱ・Ⅲ期胃がん症例で術後補助化学療法を行う場合、抗がん剤の投薬については、

導入時、症例ごとに県立広島病院あるいは連携医療機関のどちらの医療機関で行うか検討することとします。

## **6. パスの期間**

術後 5 年間です。5 年経過後は地域連携パスを終了とし、基本検診、職場検診や人間ドックを有効利用することとします。

## **7. バリエーション**

- ① 胃がんの再発や転移により連携困難と判断された時
- ② 他病の病状悪化により連携困難と判断された時
- ③ 患者事情による県立広島病院もしくは連携医療機関への定期受診困難時
- ④ 死亡